12月に行われる「もちつきの会」は，今年で8年め。道具や材料は，毎年地域のボランティアが用意する。

「つきたてのおもち，おいしいね。」柔らかいもちを，おなかいっぱい味わう。

Camera Report

心に芽生える，感動の花

安城
今池小学校

もちつき，陶芸，ジャガイモの収穫。今池小の児童432人は，地域に支えられながら，さまざまな体験を楽しんでいる。

「わあ、甘い匂いがする！」

体育館に集まった子どもたちが、学年ごとにうすを囲む。今池小恒例の「もちつきの会」だ。

地域の人が蒸したもち米を入れて、つぶしてこねる。さあ、もちつきのスタートだ。

「よいしょ！　よいしょ！」

順番が回ってきた子は、周りの子のかけ声に合わせて力いっぱいきねを振り下ろす。初めてもちつきをする子は、きねの重さに驚き、よろめいてしまうことも。そんな子に、地域の人がお手本を見せる。

「振り回すんじゃなくて、きねの重さをうまく使うんだよ。」

「ほんとだ、いい音がした！」

アドバイスのとおりに夢中でつくうちに、おいしそうなもちができあがった。

「柔らかくて、おいしい！」

つきたてのもちの味に、みんな大満足だ。

今池小では、こうした体験活動に力を入れている。他の活動ものぞいてみよう。

右上／きな粉やあんこ，大根おろしなど，できあがったもちを調理するのはＰＴＡのお母さんたち。　右下／「どれにしようかな？」おいしいもちに，何度もおかわりする子も多い。　左中央／11月の親子陶芸教室。指導や焼き上げは，地域の陶芸家の先生が行った。左下／「かわいくできたよ。」陶芸教室での子どもたちの力作。

六月の「親子じゃがいもの会」も、人気の体験活動。毎年、百人以上の家族が集まり、校内の畑で春に植えたジャガイモの収穫をする。

参加者がくわやスコップを使って畑を掘り返す中、手で直接土を掘る子も。

「土って、あったかいんだね。」

そう言いながら、気持ちよさそうに土の中に手を入れていた。

そのうちにジャガイモがごろごろと顔を出し始めると、子どもたちは大興奮。

「わあ、いっぱい出てきた！」

「いろんな形があるんだね。」

ふだんスーパーや台所で目にするジャガイモも、自分の手で収穫してみると、たくさんの発見がある。大きさや形が一つ一つ違っていたり、根っこにたくさんつながっていたり。子どもたちは、夢中になってジャガイモを掘り出していった。

とれたジャガイモは、地域のボランティアが丸ゆでにして、みんなで味わう。これが、「親

上／「いっぱいとれたね。」6月の親子じゃがいもの会。中には，一人で50個以上収穫した子も。　左／ジャガイモを調理する間は，工作の時間。竹細工で，パラシュートや竹鉄砲，竹笛などを作った。

子じゃがいもの会」のもう一つのだいご味だ。

「おいしいね！」

「とれたてだから、こんなに味が違うのかな？」

自分たちの手で収穫し、とれたてのものを食べる。子どもたちは、五感を使った体験から、農業の喜びを味わうことができたようだ。

「今日は楽しかったです。ありがとうございました！」

体験後、地域の人にお礼を言う子どもたち。その心にまかれた感動の種は、これからも育っていき、いつか大きな花を咲かせるにちがいない。